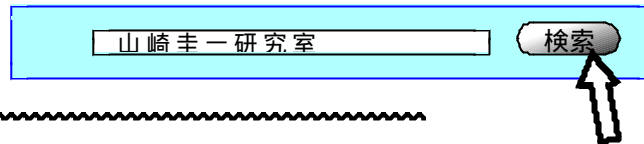


2007年 途上国経済講義レジュメ (学部用) 横浜国立大学経済学部 山崎圭一

第 13 回
7 月 19 日

本講義のサイトへのアクセス方法

- 1 URLを直接入力する：http://park23.wakwak.com/~latin_america/index.html
- 2 大学のHPから順にナビゲートしていく。<http://www.ynu.ac.jp>
- 3 検索サイトで、「山崎圭一研究室」と入力して、検索する。



本日は、急遽のことで申し訳ないですが、来日中の世界的経済学者、ラーマチャンドラン教授を招いて、お話を伺うことにいたしました。滞在期間が9月末までとわかり、本日を逃すと機会がないのです。むろん、8月2日(木)の補講期間に1回セッションを設定することも、不可能ではありませんが、それはまた相談しましょう。

ラーマチャンドラン先生の紹介(岡部教授の電子メールより抜粋し、一部編集)

氏は現在インド統計研究所(一種の大学院大学)カルカッタ本部社会科学部教授。マドラス大学大学院修了後、WorldInstituteforDevelopmentEconomics Research (WIDER),UnitedNations University, Helsinki (1986以降)や、Center forPopulation andDevelopmentStudies, HarvardUniversity, Cambridge, Massachusetts (1989-1991)など欧米や国際機関を遍歴した後、90年代からインド国内に拠点を戻し、フィールドワークをベースにした研究を展開。同時に、途上国の国際的な研究者ネットワークを推進する先生です。

主著は *WageLabour andUnfreedominAgriculture An Indian CaseStudy*,OxfordPress,1990。学生時代からインド、ケララ州の社会改革運動や理論問題に深くかかわっていたようです。アマルティア・センとも古くから親交があり、共著で本を出版していますが(*IndianDevelopment*, Oxford Press,1996 など)、そこでケララ問題の部分を書いています。共同研究者である奥様の Madhura Swaminathan(同じインド統計研究所の同僚)も著名な研究者。 *Weakening Welfare:ThePublicDistributionofFoodinIndia*, Left Word, 2000 など多数出版し、農村女性労働論でも高水準の研究を積み上げています。

ラーマチャンドラン氏の最大の業績は、タミール・ナドゥ州 Gokilapuram 村における過去30年にわたる本格的な長期参与観察です。彼のこの地道な調査によって公式統計ではけっして行き届かなかったインド開発の歴史と問題点が鮮明に照らし出されつつあります。氏の華々しい理論活動は実はこのフィールド調査で確証されたものといえそうです。

最近では、奥様との共編著で *AgrarianStudies:EssaysonAgrarianRelations in Less-Developed Countries*, Tulika,2002 を出版。これは、インド、西ベンガル州政府主催の「低開発諸国における農村事情と地域開発に関する国際学会」での報告・議論をまとめたものです。討論者の国籍はインド、メキシコ、ブラジル、キューバ、バングラデシュ、南アフリカ、ベトナム、中国、フィリピン、イギリス、アメリカ合衆国などです。そこでは低開発諸国の農地改革が今日のグローバル化の下でどういう現状に置かれているのか、という問題が様々な角度から議論されています。日本や韓国の農地改革の歴史も議論されています。

さらに最近、その続編として *AgrarianStudies 2: FinancialLiberalisationandRuralCreditinIndia*, Tulika, 2005 が出版されたようです。これは金融自由化による地域農業金融の崩壊と貧困・格差問題を扱ったもので、1977年以來の3回にわたる Gokilapuram 村に関する全数調査が有力なデータソースになっています。私の手許にはその関連文献として、MadhuraSwaminathan と共著 '*Rural Banking and thePoor:InstitutionalReform and Rural CreditMarketsinIndia*' がありますが、これは2000年9月にロンドンスクール・オブ・エコノミクスで開催された、DESTIN Conferenceon'NewInstitutional Theory, Institutional Reform andPovertyReduction'への提出論文です。そこで氏らは新制度学派の可能性と問題点にまで議論を広げているのです。

同時に、最近、Agrarian Studies の財団を自ら創設し、多様なインドの異なる地域毎に村落をえらびだし、Gokilapuram 村と同様の定点観察を5カ年計画で展開しています。今回はラジャスタン州の村落調査の合間を縫っての来日です。

その他、氏は UNICEF や ILO などの国際機関の活動にコミットし、新古典派に替わるオルタナティブな開発経済学を標榜する International Development Economics Associates (IDEAs) の主要メンバーの一人です。公式サイト<<http://www.networkideas.org>>のトップページには、IDEAs has been established with the purpose of building a pluralist network of heterodox economists engaged in the teaching, research and application of critical analyses of economic development. とあります。

これは蛇足ですが、氏はジャーナリズムでも国際的に著名。例えば、N. チョムスキーのブッシュ政権批判の発言は、実は、ラーマチャンドラン氏(当時、インド大衆紙 FrontLine の編集委員兼務)との対談から飛び出し、国際メディアに流れたもののようです。大江健三郎文学については少なくとも私(岡部)より詳しいです。

=====

* 前期末レポート課題

「アマルティア・センの潜在能力論について知るところを述べなさい」

字数・書式 : 1800字以上、上限無し。A4用紙で40字×50行の書式でPCで書いて、打ち出してください。カバー・レターは不要です。学年、学籍番号、氏名を忘れずに。1800字ちょうどなら、1枚で済みます。

提出先・締めきり : 学務係、7月31日(火)

ヒント : 新しく参考書を買う必要はありません。私のレジメや講義内容で書ける内容で十分です。参考書が欲しい人は、アマルティア・セン著『自由と経済開発』日本経済新聞社がおすすですが、無理に購入する必要はありません。拙著『リオのビーチから経済学』にも少し書いていますが、その関連部分はコピーでお渡ししています。

なお、内容としては、(1)潜在能力論そのものの説明だけでなく、(2)人間開発指標(HDI)の説明、(3)世界の人間開発の状況などに触れてもらっても結構です。ただしメインは(1)です。

東アジア・太平洋 ユース・ダイアログ・シリーズ

~ Youth Dialogue Series ~

ビデオ会議 2007年7月23日(月)12:00-14:00

http://www.ydpjapan.net/project/project_yds_top

東アジア・太平洋地域各国のユース間対話プロジェクト

「ユース・ダイアログ・シリーズ(YDS)」を7月も開催します。

ユース・ダイアログ・シリーズ(YDS)は、世界銀行のビデオ会議システムを使っての国際会議です。

今年は、3月から隔月開催で5回のビデオ会議が予定されています。

今回はその第3回です。

【1】テーマは「仕事に行く」

5回のシリーズを通して、ユースが焦点となっている世界開発報告2007(WDR2007)を扱います。WDRは世界銀行が毎年発行しているレポートで、開発経済学・国際協力の世界に大きなインパクトを与えています。

毎回の会議では、ユース(12~24歳)が経験する、生活に関わる5つの過渡期(transitions)のそれぞれを扱います。

7月の会議は「仕事に行く Going to work」がテーマです。

なお、各回の予定は以下のようになっています。

3月26日(月) Transition 1: 仕事と生活のために学習する (終了)

5月28日(月) Transition 5: 市民権を行使する (終了)

7月23日(月) Transition 2: 仕事に行く

9月24日(月) Transition3: 健康的に大人になる

11月26日(月) Transition 4: 家族を形成する

【2】コーディネーター/参加者募集!

参加者募集

東アジア・太平洋のユースの声を直接聞けるとてもいい機会です。

会議に参加して、アナタも彼らと意見を交わしてみませんか?

ぜひお気軽にご参加ください!

コーディネーター募集

また、このYDSのコーディネーターも募集しています。

海外のユースと協力して、11月までの会議をコーディネートすること

により、国境を越えたお互いの友好関係を築いていけるとおもいます。

是非、一緒に魅力的な国際ビデオ会議を作っていきましょう!!

コーディネーターに興味をお持ちの方はこちら もご覧下さい。

http://www.ydpjapan.net/project/project_yds_recruit

【3】イベント概要

ビデオ会議

【日時】 2007年7月23日(月)午後12:00-14:00

*11:40に集合してください

【会場】 世界銀行東京事務所

<http://www.jointokyo.org/ja/about/location/>

【主催】 世界銀行シンガポール事務所

【テーマ】 仕事に行く(Going to work)

【発表国】 ネパール、バングラデシュ

【使用言語】 英語

【参加対象】 ビデオ会議やWDR2007に興味のあるユースの方
YDPJNの加盟/非加盟は問いません。

【参加費】 無料

関連ウェブサイト

http://www.ydpjapan.net/project/project_yds_top

(YDSの詳細が載っているページです)

<http://www.worldbank.org/wdr2007>

(WDR2007「開発と次世代」についてのページです)

【4】参加方法

以下のフォームに必要事項を記入し、件名を「7月YDS参加」として
s.onishi@ydpjapan までお送りください。

申込締切は、2007年7月22日(日)です。

申込フォーム
7月 YDS に参加します。

【お名前(漢字)】

【お名前(ローマ字)】

【ご所属(団体・大学など)】

【電話番号】

【メールアドレス】

【コーディネーターに関心が ある or ない どちらかを消してください】

【7月23日ビデオ会議に 参加 不参加 どちらかを消してください】

講義では、この下に外務省のHPからとったインド基礎情報をコピーしておきました。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/india/data.html>

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/india/kankei.html>

さらにそのあとに、私の『ダーウィンの悪夢』再々論を、コピーしておきました。(ブログより)

http://blogs.yahoo.co.jp/i_development_2005/50266387.html

以上